

J - クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成30年7月2日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	燃料転換によるボイラー設備更新事業
承認番号	KC0117
排出削減事業者名	フクシマフーズ株式会社
排出削減共同実施事業者名	カーボンフリーコンサルティング株式会社 (その他関連事業者名: なし)
事業実施場所	フクシマフーズ株式会社 (住所: 福島県伊達郡桑折町大字成田字二本木10-1)
事業の概要	燃料転換によるボイラー設備更新事業 既存のボイラーよりも高効率のボイラーに更新する事によりエネルギー効率を改善し、化石燃料の消費量を削減する。また、A重油から二酸化炭素排出係数の低い天然ガスに燃料転換する事により、CO <sub>2</sub> 排出の削減を行う。
排出削減量の計画	2009年度: 1,814 tCO <sub>2</sub> 2010年度: 5,798tCO <sub>2</sub> 2011年度: 6,181 tCO <sub>2</sub> 2012年度: 6,589 tCO <sub>2</sub> 2013年度: 7,002 tCO <sub>2</sub> 2014年度: 7,002tCO <sub>2</sub> 2015年度: 7,002 tCO <sub>2</sub> 2016年度: 7,002 tCO <sub>2</sub> 2017年度: 4,668 tCO <sub>2</sub> (事業実施期間合計 53,058tCO <sub>2</sub> )
クレジット認証期間	開始日 2009年12月01日 終了予定日 2017年11月30日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

## 2. 本実績確認の対象期間

2016年4月1日～2017年11月30日（第4回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	7,688tCO <sub>2</sub> (2016年4月1日～2017年11月30日)
-------	--

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。  2) 対象期間中の設備稼働の確認 天然ガスの請求書及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 天然ガスの請求書からのガス使用量の集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。  2) 活動量の正確性 天然ガスの集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 事業者へのヒアリング並びに J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.1等により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果を天然ガス請求書の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。</p>
算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	<p>今回の実績確認対象期間は 2016 年 4 月 1 日から 2017 年 11 月 30 日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2017 年 11 月 30 日となっているため、当該算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

モニタリング担当者の変更があったが、排出削減事業に影響がないことを確認した。

## 6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 592.0kL、熱量換算22945GJであることを確認した。

以上